

## 第11回 通常総会を開催

(一社)日本非開削技術協会事務局

令和元年6月12日（水）16時より「第11回日本非開削技術協会通常総会」を開催しました。会場のルポール麹町（東京都千代田区）には、約150名が集まり提出された3議案についてすべて承認されました。

総会終了後、日本非開削技術協会 技術表彰として、機関誌「No-Dig Today」技術記事表彰および第29回非開削技術研究発表会表彰式を行いました。

また総会、表彰式終了後に懇親会を開催。来賓、役員など総勢約200名にお越し頂き、盛大な総会となりました。

### ■ 第24回理事会

第11回総会に先立ち、第24回理事会を令和元年6月12日（水）ルポール麹町会議室にて開催いたしました。理事会では、第11回総会付議事項ならびに第11回総会議決事項として、以下議案について承認されました。

- (1) 第1号議案 2018年度事業報告、収支決算に関する件（決算確定値）
  - ・ 第2号議案 任期満了に伴う役員（理事）の改選
- (2) 第2号議題 第24回理事会 議決事項
  - ・ 第3号議案 2019年度事業計画、収支予算
  - ・ 第4号議案 新規入会の承認に関する件
  - ・ 第5号議案 顧問の委嘱の件



▲ 第24回 理事会の様子

### ■ 第11回 通常総会

第24回理事会終了後、同日16時30分よりルポール麹町「サファイア」で第11回通常総会を開催しました。ここでは、まず「2018年度事業報告、収支決算報告」および、「任期満了に伴う役員（理事）の改選」の2件を報告し、総会で承認されました。

その後、代表理事・会長及び副会長を再度理事会で選任するため、総会を一時休会いたしました。

### ■ 第25回 理事会

第11回総会において承認されました、役員（理事）において、代表理事・会長および副会長専任および顧問選任のため、第25回理事会を開催し、以下2議案について承認されました。

- ・ 第一号議案 代表理事・会長及び副会長の選任
- ・ 第二号議案 顧問委嘱

### □ 第11回 通常総会 再開

第25回理事会終了後、同日17時より第11回通常総会を再開しました。ここでは第25回理事会で承認された新役員の実行体制が報告され、次に以下2件の報告を行いました。

- ・ 第一号報告 2019年度事業計画 及び 収支予算に関する件
- ・ 第二号報告 顧問の委嘱 に関する件



▲ 第11回 通常総会の様子

以上、2議案の承認ならびに2議案の報告をもって第11回通常総会を無事に終了いたしました。

#### 一般社団法人日本非開削技術協会役員一覧（敬称略）

##### 【代表理事・会長】

森田弘昭 日本大学生産工学部教授

##### 【理事 副会長】

石川和秀 全国ヒューム管協会専務理事

小林正樹 前 日本電信電話(株)アクセスサービスシステム研究所所長

※島田英樹 九州大学大学院工学研究院  
地球資源システム工学部門教授

##### 【理事】

今川 明 積水化学工業(株)環境・ライフラインカンパニー管路更生事業部長

大岡太郎 東亜グラウト工業(株)取締役

大川内稔 日本ヒューム(株)代表取締役社長

勝本 宏 ラサ工業(株)取締役機械事業部事業営業部長

小寺健司 (株)奥村組常務執行役員土木本部長

齋藤秀樹 応用地質(株)技術本部理事  
技師長室物理探査担当技師長

杉野文秀 NTTインフラネット(株)取締役企画部長

中野正明 機動建設工業(株)代表取締役社長

長谷川健司 管清工業(株)代表取締役社長

※細洞克己 日本水工設計(株)執行役員東京支社長

堀地紀行 国土館大学理工学部教授大学院  
建設工学専攻

※榎本太司 芦森工業(株)執行役員機能製品事業本部  
パルテム統括部長

宮崎正信 (一社)日本水道工業団体連合会専務理事

谷戸善彦 (株)NJS取締役技師長兼開発本部長

山田耕士 (一社)農業土木事業協会事務局長

(※は新任, 他は再任)

##### 【監事】

黒住光浩 前 (公社)日本下水道協会常務理事

佐藤 徹 (株)イセキ開発工機建機事業本部副本部長  
兼建機営業部長

##### 【顧問】

大岡伸吉 東亜グラウト工業(株)相談役

※楠田哲也 九州大学高等研究院特別顧問・名誉教授

松井大悟 (一社)日本非開削技術協会顧問

(※は新委嘱)

#### ■ 技術表彰 授賞式開催

第11回通常総会終了後、同会場にて2018年度の非開削技術表彰を行いました。ここでは、2018年度に4回発刊しました当協会機関誌「No-Dig Today」技術特集報告の全42編のうち、編集委員会にて選出された優秀報告の表彰、および昨年11月18日に六本木想海樓ホールで開催した技術研究発表会において技術委員会にて選出された優秀発表者の表彰を行いました。

##### 1. 機関誌「No-Dig Today」技術報告 表彰

###### 【最優秀賞】

104号「下水道管路調査診断システムについて一衝撃弾性波検査法」管路品質評価システム協会  
後藤正信様

###### 【優秀賞】

106号「自立管 製管工法（ら旋巻管）の開発と施工事例」積水化学工業株式会社  
吉野克則 様

106号「パルテムHL 工法の 下水道圧力送水管への施工事例」芦森エンジニアリング株式会社  
好光徹雄 様

##### 2. 第29回 非開削技術研究発表会 表彰

###### 【最優秀賞】

「更生管の非破壊検査手法の開発」芦森工業株式会社  
北川英二 様



▲ 2018年度 非開削技術表彰式の様子

【会長挨拶】

**森田 弘昭**  
MORITA Hiroaki  
(一社)日本非開削技術協会  
会長



本日はお忙しいところ、ご参加を頂きまして誠にありがとうございます。第24回理事会および第11回総会において日本非開削技術協会会長に再任となりました森田でございます。よろしくお願いいたします。

この2年間で当協会の立ち位置が私なりに分かってきました。一つは、当協会を支えてくださる方々は下水道に関係する方々が多いのですが、当協会には、通信、ガス、電力、農業分野など多くの分野の方々に支えられています。当協会は、他分野の窓口、パイプ役を担っているのが特徴であり強みであります。こちらの会場で司会をしております事務局長も東京電力からの現役出向者

で、電力部門との強いパイプが繋がっております。もう一つは、海外分野も当協会の強みです。会員の皆さまから、海外進出や、海外情報が欲しいという場合でも積極的に情報を提供していくことが可能です。当協会の事務局次長は、英語が堪能でかつ管路系の技術情報も得意です。このようなメンバーで皆様のお役にたてるように準備しております。そして、会長の私は、大学の先生をしており、学生に対してパイプがありますので、会員の皆さまのなかで、もし人員不足というようなことがあれば少しでもお役に立てることが出来れば良いと思っております。

当協会は、先に紹介した2名の職員および週1回の2名嘱託社員、そして私の5名で頑張っております。今後とも皆様のご協力を頂きながら「世界の窓口」、「他業界の窓口」として頑張っていきたいと考えております。

粗酒粗餐ではありますが、お時間の許す限り懇談を頂ければと思います。

本日はありがとうございました。



▲ 懇親会の様子

## 【来賓祝辞】

### 森岡 泰裕

MORIOKA Yasuhiro

国土交通省

水管理・国道保全局下水道部長(当時)



日頃より、下水道をはじめとするライフラインの整備・管理にご尽力を頂いておりますことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今朝、家を出る際に、こちらの非開削技術協会の話をしたところ、医療でも開腹手術ではなく内視鏡を使った手術が多くなったという話となりました。人間の体に例えると、体を痛めて手術をする技術から体を傷めない手術方法が多くなったということですが、非開削技術は、道路を傷めず、内視鏡手術のように道路に負担が少ない技術です。さらに日本として海外にも売れる大変素晴らしい技術であると思っております。

この素晴らしい技術を多くの方々に知って頂くことが重要で、この非開削技術協会が下水道のみ

ならず、関連するさまざまな業界の方々と一緒になって研鑽され発展されていることに改めて敬意を表したいと思います。

下水道事業もかなり普及率は上がってきましたが、より一層の強靱化、持続性の向上を含めて、まだまだ課題、そしてやることがたくさんあります。森田会長のご挨拶にもありました“インフラ輸出”という面でも、まだまだこれからプロジェクトがたくさんあります。皆様方と一緒にぜひ明るい未来を考えたいと思います。また森田教授の教え子がぜひこの業界にたくさん入ってこれからの下水道を含め、非開削技術を支えてもらえるような業界に発展されることを大いに期待したいと思います。

簡単ではございますが、日本非開削技術協会のますますのご発展、そしてISTTの中でもますます地位高まりますことを祈念申し上げますとともに、今日ご参加の皆様のご健勝を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございました。

## 【来賓祝辞】

### 曾小川 久貴

SOOKAWA Hisataka

(公社)下水道協会  
顧問



日本下水道協会顧問をしております曾小川と申します。日頃より下水道事業へのご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

先ほど下水道部長森岡様のお話にもありましたが、下水道の普及率がかなり上がってきており、最近では老朽化が問題となっていて更生工法などの技術が非常に注目されています。これもまさに非開削技術です。またその調査も非常に重要でこれにより下水道法の改正もされました。

また、今年5月末に新聞記事には、緊急輸送道路の電柱の占用更新手続きが出来なくなるルールが紹介されておりました。必然的に、非開削技術工法に対する期待が高まります。

これまで、景観を目的に地中化することでしたが、防災のために地中化を推進していくことになってきております。同時にライフラインの耐震性の向上も必要となってくることであり、この協会の技術を高めていくことが、国民の期待に応えるということにもなります。

ぜひ今日お集まりの方々には下水道分野だけに限らずガス、水道、通信、電気、農業分野、あらゆるすべての分野で共通することですので、ご協力を頂きながらますますの協会の発展を祈念したいと思います。

本日はおめでとうございました。